



【シンポジウムⅣ】「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム
—伴侶（家庭）動物との暮らしを地域活性へ」

「高齢ペット飼育者の意識調査」

西澤 亮治氏

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 事務局長
株式会社ペピイ 代表取締役

○富永 引き続きまして、高齢者の方々はどうお考えなのでしょうかという疑問に対して、高齢ペット飼育者の意識調査ということで、特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会事務局長で、株式会社ペピイ代表取締役の西澤亮治先生にお話をいただきたいと思います。

西澤先生、よろしくお願ひいたします。

○西澤 皆さん、こんにちは。御紹介いただきましたけれども、今日は、動物愛護推進社会化推進協会の西澤として発表させていただきます。よろしくお願ひします。【スライド1】

冒頭に、富永理事長と座長の細井戸先生からお示いただきましたが、きょうのプログラム「地域を幸せにする伴侶（動物）飼育支援システム—伴侶動物との暮らしを地域活性化へ」というテーマですが、ここの中核になる高齢者のペット飼育支援につながる、そのための高齢ペット飼育者の意識調査の内容を中心にお話しさせていただきます。【スライド2】

簡単に協会の紹介をさせていただきますが、良い飼い主さんを世の中に増やしていこうという活動を主にやっています。家庭動物の飼育に関する正しい知識を持ってもらう、そういった方をふやすことで、社会全体をよくしていこうという事業を継続しております。【スライド3】

直近では、今年5月、東京で「高齢者とペット、高齢者のペット飼育支援を考える」というテーマのシンポジウムを開催しましたが、ことし、2013年の一昨年と都合3回、こういったテーマのシンポジウムを続けて開催しています。

それにあわせて、ペット飼育者の意識調査アンケートも何度か実施しまして、その後も、介護事業者の方ですとか、介護施設また介護にかかわる方のヒアリングを続けながら、今、私自身も高齢者の飼育支援についての調査研究を進めさせてもらっています。【スライド4】

ちょうど1年前の7月20日、第3回神戸アニマルケア国際会議でも発表する機会をいただき「飼い主の今を探る」というテーマで発表させていただきました。そのときのまとめとしまして、業界の垣根を越えて取り組むべきものということで、これも冒頭にお話しいただいた、地域包括ケアシステムの中に、地域の医師会、介護事業者と獣医師会の連携、獣医師による動物医療の提供であったり、動物看護師、動物愛護推進員、ドッグトレーナーという、そういった家庭動物専門の職種の方が、この中に入っていくのは、一番、今は望ましいのではないかとこの提案をさせていただきました。この1年間で、これをより深める形での発表にできればと思っています。【スライド5-6】

本日の発表内容ですが、ひとつめに現在の犬猫の飼育状況、2つ目が、きょうのテーマである意識調査アンケート、特に60歳以上の方がどうお考えなのかを紹介させていただきます。3つ目に、私たちができること、課題、これからの取り組みという順番でお話をさせていただきます。【スライド7】

現在の犬猫の飼育状況ですが、2つのデータを御紹介させていただきます。1つは、私が担当、仕事の一部でもあるペピイ、動物病院でペピイ



というカタログをごらんになられた方もおられると思いますが、全国8,000ぐらいの動物病院さんで、この本を配らせてもらったりすると、あとはインターネットでペット用品の通信販売をしています。この資料と毎年実施されている一般社団法人ペットフード協会の資料からデータを御紹介させていただきます。

[スライド8]

まず、ペピイの顧客データです。過去1年間の中で、ペピイの通信販売を利用した方のデータになります。犬の飼い主さん、猫の飼い主さん、犬と猫両方飼っておられる飼い主さんの年代別の構成比になります。見ていただくとわかるように、40代、50代という方が一番のコアになっています。猫の飼い主さんのほうが年代では少し若いような状況になっています。

[スライド9]

これは犬の飼い主さんの方、40歳代、50歳代、60歳代の飼っているわんちゃんの年齢の構成比を出してみました。ご覧になってわかるように、飼い主の年齢が高くなるにつれ、飼っている犬の年齢も高くなるという状況になっています。60歳代の飼い主さんにつきましては、9歳以上のわんちゃんの比率が半分以上、53%ということで、やはり高齢の方が高齢の犬を飼っているということが、明確に出ています。

[スライド10]

次に、ペットフード協会の資料ですが、こちらを見てみますと、飼育率という言い方をしていますが、世帯ごとにどれぐらいの方が飼っておられるかという資料です。これも50歳代、60歳代が、犬も猫も一番多いという状況になっています。[スライド11]

次に、犬と猫の平均寿命です。犬と猫の平均寿命というのは、なかなか正確に算出することが難しいと考えられていますが、おおよそ犬も猫も、15歳というのが平均的な寿命と捉えられています。[スライド12]

右の写真は、毎年大阪で行われている大阪の動物愛護フェスティバルというイベントの中の1つで、長寿動物表彰をやっています。毎年600組近い、飼い主さんとわんちゃんと猫ちゃんが、この会場に集まり、こういったスライドで紹介しています。」お名前は消していますが、これは21歳のわんちゃんです。

これまで、犬や猫って、どれぐらい生きるのですか?と聞かれたときには、10歳から15歳くらい生きますよと、答えていたのですが、これから、最近は15歳から20歳生きます。猫については20歳以上生きるのも珍しくないですよと、そういう返事をしています。

こういった状況から、やはり高齢、40代、50代、60代の方が、今、日本の中では非常に飼育率が高い、ということが言えると思いますし、また、年齢が上になるほど、高齢のわんちゃん、猫ちゃん、特に犬については高齢の犬を飼っておられるケースが多いことがよくわかると思います。

次に、飼い主さんの意識調査アンケートを紹介させていただきます。これも一般の犬と猫の飼い主さんを対象に、インターネットを利用して調査したアンケートです。このアンケートの特徴的な点は、これも先ほど紹介しました、ペピイの利用顧客を対象にしたアンケートです。

[スライド13]

どういうことかといいますと、動物病院さんに比較的良好に通院されている、メディカルケアであったり、自分の犬や猫に対する健康管理に対して、比較的強い意識をお持ちの方というのが、このアンケートにお答えいただいた方になりますので、その点は考慮に入れたほうが良いかと思います。

このアンケートでは、約4,000人、3,987の方に回答をいただきました。女性が、そのうち3,435名で男性が552名、トータルで3,987名ですが、その中で60歳以上の方が453名。453名の



内訳は女性が304名、男性が149名となっています。**【スライド14】**

1つ目、ペットとの暮らしで、あなたにとってよい面はどんなところですかという質問です。**【スライド15】**

このブルーのほうは3,987人全員の方の集計になります。癒やされる・毎日が楽しく過ごせる・家庭や夫婦間が和やかになる・気持ちが落ちつく・心が通じ合うように思える、こういったことが上位の回答になっています。**【スライド16】**

これに対して、60歳以上の方だけを集計しますと、上位の回答は変わらないのですが、下の自分自身の健康に役立つと答えた方が、これは60歳以上の方だけが極端に高くなっています。

【スライド17】

次に、自分自身の健康に役立つと答えられた方だけに聞いてみました。**【スライド18】**

当てはまるものは何ですかという質問ですが、これも上位では、ペットといると毎日が楽しく過ごせる・気持ちが安らぐ・よく歩くようになった・笑う時間がふえた・健康でいようという気持ちがより強くなったという順番で回答が出ています。**【スライド19】**

これも、全体ではこうなりますが、60歳以上になりますと、よく歩くようになったというのが1番になります。これをソートしますと、60歳以上の方は、よう歩くようになった・ペットといると毎日が楽しく過ごせるという、この2つが一番高い回答になります。**【スライド20】**

その次に、先ほどお話ししたように、このアンケートは、皆さん、犬猫を飼っておられる方ですので、今いるペットが亡くなったら、あなたは新しくペットを迎えようと思いますかという質問をしてみました。**【スライド21】**

その答えです。わからない、これは本当に正直なところだと思います。亡くなった後に考えるという方が半数ぐらいおられますが、やはり、その中で、ずっとペットと暮らしたいという方

が4分の1ほどいらっしゃいまして、飼いたいが実際には飼うことはできないと思うという方が20%強、これが全体の割合になります。

【スライド22】

これに対して、60歳以上になると、これも極端な数字として出てきます。飼いたいが、実際には飼うことはできないと思うというのが半数近く占める結果になります。その理由を聞いてみました。**【スライド23】**

飼いたいが実際には飼うことができないと思う、また、もう二度と飼うことはないと思うという、その理由は？という質問に対して、自分の年齢、最後まで世話ができそうにないというのが、もうこれが圧倒的に理由として多くなります。その中でも、特に60歳以上の方では、ほぼ100%の方が、今は元気だけれども、将来、先ほどの平均寿命で言う10年から15年、または20年という長い期間に、自分が病気になったり死んでしまったりということが危惧されることで、ペットに対する責任を負えないんじゃないかということが、飼えないと思う原因になっているというのが、これでよくわかるかと思えます。**【スライド24・25】**

何らかの理由、健康面や経済面、住宅事情でペットが飼えなくなった、飼育できなくなったときはどうしますかということも聞いてみました。**【スライド26】**

家族や親戚に相談する・親しい友人に相談する・かかりつけの動物病院に相談するという順番で回答が出ています。これも60歳以上の方になると、そう大きくは変わらないですが、このデータを、友人の介護関係の方に見ていただくと、やはり60歳ではまだ大丈夫でも、70歳を過ぎると、友人が減ってくるというのが顕著に出てくるそうです。ですから、この「親しい友人に相談」という数字が減るのは、そういうことも関係しているのではと助言をもらったことがあります。**【スライド27】**



この中で気になるのは、保健所や動物愛護センターなど行政の機関に相談するという回答が、一番下から2つ目になるんですが、かなり低い数字になっています。なかなか、こういった問題では相談する相手としての認知というのが、行政の機関は、まだまだ低いということが出てきている数字になっています。

内閣府では高齢者の日常生活に関する意識調査を5年ごとに実施しています。これはホームページをご覧になられたらよくわかりますが、ちょうど昨年、直近の調査結果が今、出ていましたので、それと同じ質問をペットの飼育者の方にも聞いてみました。どんな差が出るのか、また差が出ないのかを知りたいと思い、同じ質問で回答していただきました。[\[スライド28\]](#)

内閣府の調査は、60歳以上の男女3,893名を対象にしているデータですが、あなたは現在、御自身の日常生活全般について満足していますかに対して、ブルーのほうは内閣府の調査結果です。満足している・まあ満足しているで、約7割弱の方がこういった結果になっています。これに対して、こちらはペットの飼い主さんの数字です。満足しているというのが非常に高くなっています。92%、93%という形で、これぐらいになっています。もちろん、これは短絡的に「ペットを飼っているから、満足度が高い」ということには必ずしもなりません、非常に、興味深い数字じゃないかなと思います。[\[スライド29\]](#)

これも同様に、内閣府の調査と同じ質問で聞いてみました。あなたが普段の生活で楽しいと感じていることは何ですか？[\[スライド30\]](#)

内閣府の調査では、テレビ・ラジオが圧倒的に高い結果になっています。テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・親しい友人との交流、こういった順番になっていますが、これをペットの飼育者に聞くと、犬や猫などのペットと遊ぶ、過ごすことが1番になります。これは87.4%というこ

とで、圧倒的に高い数字になりまして、先ほどの内閣府の数字とは少し違ってきている状況になります。[\[スライド31-32\]](#)

次に、あなたは将来の自分の日常生活全般について、どのようなことに不安を感じますかという質問も聞いています。[\[スライド33\]](#)

これだけペットを飼ってる方への質問には違う問をひとつだけ入れました。「ペットの将来（病気や死別）」という項目だけ追加して入れましたが、一般の内閣府の調査では、自分や配偶者の健康・病気、または自分や配偶者が寝たきりや体が不自由になり介護が必要な状態になるというのが圧倒的に高いんですが、これをペットを飼っている方に聞くと、やはり3番目にペットの将来ということが心配だという回答が得られました。子供の将来とか生活のための収入よりも、ペットの将来が心配だという方が多いというのが、これが本当に家族として近い存在であるというのが、よく現れているのではないかと思います。[\[スライド34\]](#)

以上がアンケートの紹介ですが、ペットと暮らすことが、健康に役立つことも含めて、いろいろさまざまなプラスの効果があるというのが、このアンケートでわかるかと思っています。ペットといることが一番楽しいと答えられていることこそが、それをあらわしています。ただし、新しくペットを迎えますかという質問に対しては、自分の年齢がゆえに諦めているという回答が多いことが顕著にこのアンケートからもわかるかと思っています。

こういった結果を踏まえて、私たちができること、課題、これからの取り組みですが、これは先ほどお示しいただいた地域包括の中ですが、懸上先生からもお示しいただいた、この地域包括の中に、どういう形で動物にかかわる人が入っていくかを考えてみました。[\[スライド35-36\]](#)

これも、いつもご覧いただいている表だと思っています。高齢者人口3,400万人という、すごく



多い人数になっていると思います。今さらですが、この3,400万人を高齢者という言葉でくくりで話すのは、ちょっと違うのでは…ということに、ことし1年いろいろ調べたところ、そう感じました。【スライド37】

その理由として、高齢者の生活背景は多様であるということがまず1つ。本当に、今すぐ介護や支援の手を差し伸べないといけない方の中にはおられますし、逆に、元気で健康で経済的にもそんなに不自由はしてないという方の中にはおられます。家族と同居の方、さっきも出しましたが、ひとり暮らしの方がふえているという話がありましたけれども、家族と同居であっても、なかなか家族と折り合いがうまくいってなくて、家族間でも支援が得られそうにないという方もおられますし、それは、いろんなケースがあるかと思います。こういことを考えると、このとおりです。高齢者の生活背景は多様であり、必要とされる支援、望むサービスは単一ではありません。そのために、それがゆえに多職種の連携が必要になります。【スライド38】

介護のことについて触れますと、アセスメントという言葉が、よく介護の現場でも使われます。どういうことかと言いますと、今言った、高齢者の生活背景です。家族構成は？、経済的な面は？、あなたの健康状態は？これらを事細かく、その方の情報を集めたカルテをケアマネの方が最初につくられるとお聞きしました。それによって、どういう支援、どういうサービスが必要なのかを、的確な支援ができるようにするために、そういったアセスメントをされると聞きました。

ケアマネさんは、よく社会資源という言葉が使われます。ケアマネさんが社会資源というのは、先ほど紹介しました、多職種の連携ということです。地域の中で、介護だけではなくて、例えば、散髪屋さんであったり、お弁当屋さん

であったり、大工さん、工務店さんであったりとか、いろんな職種の方とのネットワークを今一番必要としているという話を複数の方からお聞きしています。社会資源ということをよくおっしゃられますが、そういったことを取り入れて、総合的に支援することが、これから必要になってくるとというのが1つあります。

これも介護用語になりますが、フォーマルサービスとインフォーマルサービスという言葉があります。フォーマルサービスというのは、先ほど御説明いただいたような医療保険制度や介護保険制度の中での法律や制度に基づいて行われる公的なサービスのことを指します。訪問介護であったりとか、デイサービスやデイケアも含まれますが、そういったことがフォーマルサービスと言われています。これに対して、インフォーマルサービスというのは、NPO法人やボランティアグループ、地域の住民の方とか、いろんな職種の方が協働して提供するというのが、このインフォーマルサービスであります。動物病院、動物関連事業者などが介入するのも、このインフォーマルサービスと考えられると思います。ただし、これを明確に分ける必要はなく、どちらがいい、どちらが悪いということでもなくて、この両者、それぞれバランスよく、よい面を提供するというのが、これから大事になるかなと思っています。【スライド39】

これも介護の関係の方のお話の中で、こういう状況ですとお聞きしたのですが、今後、増加する高齢者に対して、絶対的に介護に携わる人手が不足しているというのが現状の課題です。幸いに、私の父、母は80代ですが、まだまだ元気ですから介護の必要は今のところはないのですが、介護は介護業者、プロに任せようというのが、これまでよく聞いてきたことでしたが、残念ながら、これが今、変わっているようです。

どういうことかと言いますと、同居の家族が



おられる場合は、家族の責任や役割がどんどんこれから増えてくるということが、今言われています。

やはり、弱者、ひとり暮らしや、経済的に豊かでない方に対しての、こういったフォーマルサービスが手いっぱいになって、家族のいる御高齢の方は、家族がちゃんと面倒みてくださいますよということに、今からは間違いなくなりますよということが、今言われています。ですので、そういったことも含めて、このインフォーマルサービスの部分の拡充拡大が一番重要になっています。

もう一つ、今、求められていることに、早い段階で対処や支援ができるよう、日常から、高齢の方とかかわりを持ってくださいということが強く言われています。元気な時から、かかわりを持ってくださいと。困ったことが起きてから、SOSが出てから対処するのではなくて、困ったことが起きる前の準備と環境を整備しておくことが、これからの私たちの仕事として大事なことです。どうしようもなくなってから相談されても、その選択肢は限られてしまいますので、できるだけ早い段階で相談していただく、そのSOSをキャッチする、ということになります。【スライド40】

そう考えますと、今、ペット、犬や猫を飼育されている方との日常からのよい関係づくりをどうすれば良いかということになりますが、答えは明確で、それは地域の動物病院さんしかないんです。先ほど、アセスメントということで、その方の背景についてしっかり調べるといってお話をしましたが、少なくとも、かかりつけの動物病院、ホームドクターをお持ちの高齢の飼い主さんにとっては、そのほとんどのアセスメントの情報は動物病院がお持ちです。これを生かさない手は、僕はないと思っただけで、ぜひ、役割の拡大と書いてますけど、特に、何か新しいことをするのではなくて、今ある動物

病院の業務の中で、高齢の方への違うサービス、先ほどアンケートにも出てましたように、自分の健康や配偶者の健康の次に、ペットの将来が心配だということが明確に出ていますので、これはぜひ、動物医療関係者の方、獣医師、動物看護師の方の役割として、取り入れていただけたらと思っています。【スライド41】

もう一つ、先ほど3,400万人ということで、高齢の方の生活背景はさまざまだというお話をしましたが、やはり、介護が必要な方、支援が必要な方も当然おられるんですが、そうではない、健康で家族とか住宅、お金の面もそう心配ない方も、まだまだたくさんおられます。そういった方がペットを飼いたいといったときに、どうするかということです。これは、会場にもお越しになられている、東京の柴内先生の病院での取り組みですが、「70歳からパピイとともに」ということを提案されています。70歳になっても、子犬を飼ってみませんかという提案をされています。もちろん、今言いましたように、住環境とか飼育経験とか本人の健康状態、経済面、こういった条件をクリアすることがその条件になりますが、そういったことで病院から新しい子犬を提供する。もし、何かありましたら、また病院にお越しく下さい、ちゃんとフォローしますという約束事の中で、高齢の方に、新しくペットを提供するという取り組みをされています。【スライド42】

ですから、高齢者の支援というと、すぐ介護であるとか、そちらのほうに行きがちなんですけど、元気なお年寄りの方に、また子犬や猫を提供するということは、僕は素晴らしいことじゃないかと思っただけで、これも動物病院の役割の1つとして、ぜひ取り入れていただけたらと思っております。

もう一つは、動物愛護推進制度がありますが、これは埼玉に、私どもの協会の会員の方ですが、ケアマネの資格をお持ちで、介護の仕事をされ



ながら、彩の国（埼玉県）の動物愛護推進員の資格をお持ちで、動物のことも一緒に活動されている方がおられます。その方と最近よくいろいろ情報交換をしますが、その方が、今、動物愛護推進員を対象に、高齢者の飼育支援に関する勉強会を開催する準備をされています。それに、私どもの協会もかかわろう、かかわらせてもらうということで準備を進めています。

[スライド43]

どういふことかといいますと、介護の現状を、高齢者の有する問題、課題について、ペット飼育にかかわる問題の事例などを推進員の方に提供して、あなたにもできることがありますよということで、今、こういったお話をされています。できることの情報を伝えるということで、これも介護に、もし会場のほうでかかわっておられる方がおられたらよく御存じかと思いますが、困ったことがあったら知らせてくださいねという言い方は、だめだそうです。そういった言い方はだめで、逆に、私はこういったことができます。私らのグループはこういったことができますという具体的な方法を、先ほどの支援センターであったり、ケアマネの方に情報として伝えることが大事だと言われました。

[スライド44]

結果はどうなるかわかりませんが、これを今、埼玉県の推進員、500名ぐらいおられますが、埼玉県は熱心に推進員の委嘱をされていますので、その方たちに向けて、こういった呼びかけをする予定にしています。

散歩の代行であったり、もっと誰でもできる、ペットを介しての話し相手になってもらってもいいですよということもやられています。あと、動物病院の送り迎え、車の運転ならできますので、土曜日の午後と日曜日の午後でしたら行けますとか、そういったことを、皆さん、手を挙げてくれませんかということと呼びかけておられます。

こういったことをしながら、元気なうちから環境をつくるということが、やはり私ども協会としても注力していきたいと思っています。先ほどの介護施設でペットと触れ合うことも、それはそれで非常に大事なことです。その手前のところ、元気な方が、いつまでも動物と暮らせる、不安は多少あっても、その不安を解消するような支援をするということに、私どもの協会としては、その部分でお手伝いできることをやっていきたいと思っています。

高齢者の現状や介護の実情、見守り、早い段階でのSOSのキャッチということがありますが、現状は介護関係の方、また行政の方は、ペットのことはほとんど知識を持っておられません。介護事業所など複数のところへ伺いしお話を伺いましたが、なかなかそういうことは御存知ではありません。それに対して、動物関係の方も高齢者の方のことを「知らない」ということがあります。その間を埋めて近づける作業ということ、協会としては進めたいと考えています。もし、こういったことで一緒に情報交換していこうという方がおられましたら、お声がけいただけたら、大変ありがたいと思います。

以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。[スライド45]

○富永 西澤先生、いつも詳細な分析とすばらしい御提案をありがとうございます。

麻布大学の菊水先生が、先日、「Nature」に発表された論文で、犬と見詰め合うと、幸せホルモンのオキシトシンの分泌が促進されるという論文を出してられましたけれども、先ほど、ペットを飼っている高齢者の方の生活の満足度がほかの方に比べて高いというのは、そういった、私たちが生き物としてもっている、そもそもの性質といったものにも関係するのかなと聞いていて思いました。本当にありがとうございました。



第4回 神戸アニマルケア国際会議

「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム
— 伴侶（家庭）動物との暮らしを地域活性へ」

高齢ペット飼育者の意識調査



2015年7月20日（月）
特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 西澤 亮治

スライド1

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会 Profile

Japan Association For Promoting
Harmonization Between People and Pets

□ 主たる事務局

大阪市東成区中道3丁目8番11号 NKビル2階

Tel.06-6971-1162 Fax.06-6971-1172

www.happ.or.jp **info@happ.or.jp**

□ 設立 2007年（平成19年）8月／内閣府認証

▶ 2

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド2



もっと
増やそう

Good
Dog
Owner

スライド3

「高齢者とペット」 シンポジウムの開催

特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 2015年 第15回公開シンポジウムのご案内

高齢者とペット

高齢者のペット飼育支援を考える **入場無料**

日時 2015年 5月30日(土) 14:00~17:00
会場 東京大学農学部 弥生講堂一楽ホール
〒113-8655 東京都文京区弥生1-1-1
アクセス: 東京メトロ 有明駅(南北線) 徒歩3分

コーディネーター
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)

講演者
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)
中野 啓子 (特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会 代表理事)

主催 動物愛護社会推進協会
協賛 東京都動物愛護センター、東京都動物愛護センター、東京都動物愛護センター

Facebook: 特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会
Twitter: 特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会
Vimeo: 特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会



東京大学農学部弥生講堂 / 2015年5月30日

▶ 4

特定非営利活動法人 動物愛護社会推進協会

スライド4



第3回 神戸アニマルケア国際会議 2014

シンポジウム IV

「ずっと一緒に居られる」社会へ

— 飼い主を支えるシステムが実現する豊かな社会

発表テーマ／飼い主の今を探る

業界の垣根を越えて取り組むべきものは？

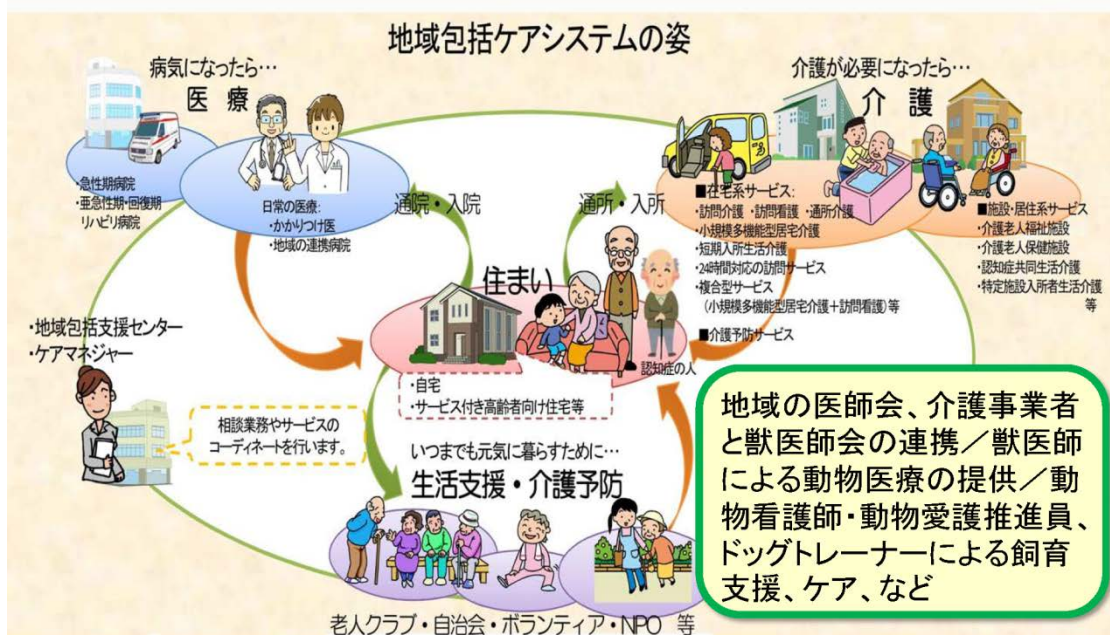


▶ 5

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド5

昨年の発表／地域包括ケアシステムへの参画



▶ 6

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド6



発表の内容

1. 現在の 犬・猫 飼育状況
2. 飼い主さんの意識調査アンケート
ペット飼育者／60歳以上の意識は？
3. 私たちができることは？
課題、これからの取組

▶ 7

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド7

1. 現在の犬・猫 飼育状況

<データから見る現在の飼育状況>

- ◇ ペット用品の通信販売
ペピイの顧客データから
 - ・登録顧客の年代別構成比
 - ・飼育している犬の年齢分布
- ◇ 2014 年度 一般社団法人 ペットフード協会
犬猫飼育実態調査資料より
 - ・年代別ペット飼育世帯率
 - ・犬猫の平均寿命



▶ 8

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド8



ペイの顧客データから 年齢別の構成比

ペイの顧客では、犬の飼育者では50歳代、猫では40歳代の利用者が一番多くなっている。

	Dogs	Dogs&cats	Cats
20歳代	5.3%	6.3%	8.1%
30歳代	13.5%	14.8%	18.3%
40歳代	28.1%	25.7%	30.9%
50歳代	31.4%	31.1%	27.7%
60歳代	17.1%	18.0%	12.0%
70歳代	3.8%	3.3%	2.5%
80歳代	0.7%	0.8%	0.5%

▶ 9

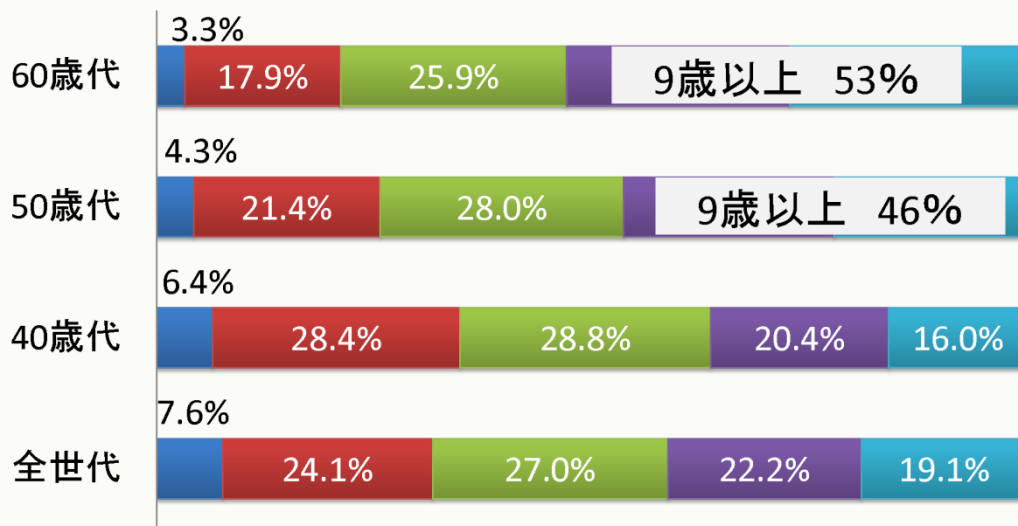
特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド9

ペイの顧客が飼育している犬の年齢分布

飼い主の年齢が高くなると犬も高齢の傾向

■ 0~1歳 ■ 2~4歳 ■ 5~8歳 ■ 9~12歳 ■ 13歳以上



▶ 10

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド10



年代別 ペットの飼育世帯率(推計)

2014年度 ペットフード協会 犬猫飼育実態調査資料より

犬・猫とも50歳代、次に60歳代の飼育者が多い

	犬		猫	
	2013年	2014年	2013年	2014年
全年代	15.8	14.4	10.1	9.8
20歳代	15.1	14.3	9.0	9.7
30歳代	12.7	12.4	9.0	9.0
40歳代	15.1	13.9	9.8	9.4
50歳代	20.0	18.2	11.8	11.6
60歳代	16.4	16.5	10.9	11.0
70歳代	-	10.3	-	7.6

▶ 11

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド11

犬・猫の平均寿命の推移

2014年度 ペットフード協会 犬猫飼育実態調査資料より

	2010年	2014年
犬 全体	13.9	14.2
超小型犬	14.4	15.1
小型犬	14.1	13.9
中・大型犬	13.7	13.4
猫 全体	14.4	14.8
外に出ない	15.9	15.7
外に出る	12.1	13.2



大阪動物愛護フェスティバル 長寿動物表彰
※写真は2013年9月21日 大阪市中央公会堂

《2002年8月～2003年7月 東京農工大学・林谷秀樹准教授の調査》

- ・犬 11.9歳 (1990年の調査では 8.6歳)
- ・猫 9.9歳 (" " 5.1歳)

▶ 12

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド12



2. 飼い主さんの意識調査アンケート

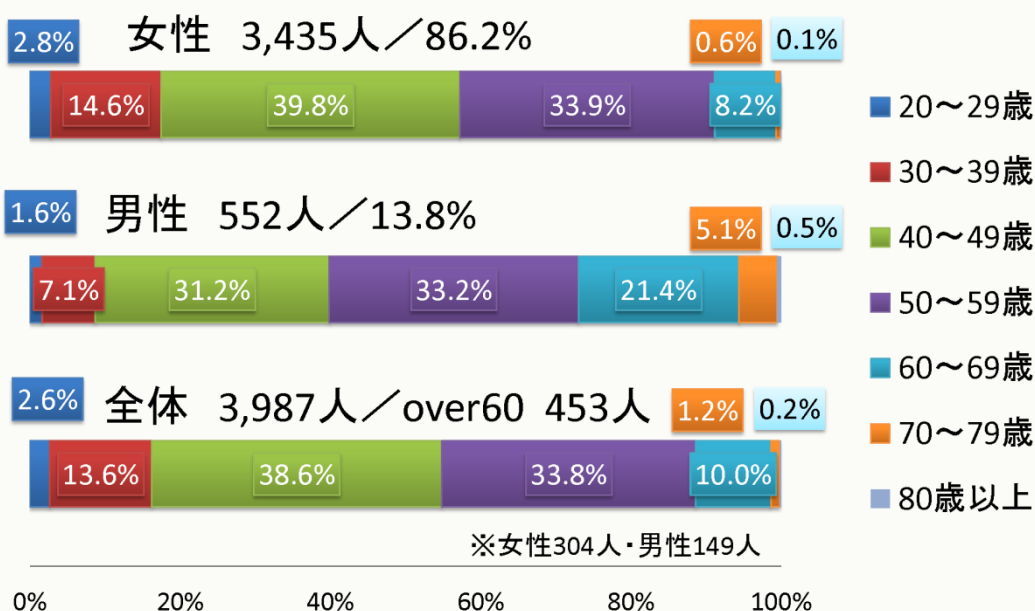
- ・調査期間 2015年6月26日～7月2日
- ・対 象 一般の犬・猫の飼い主
※「かかりつけの動物病院」を持つ
比較的意識の高い飼い主
- ・方 法 インターネットを利用
- ・回 答 者 3,987人／約100,000人に配信

▶ 13

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド13

回答者の性別と年代



▶ 14

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド14



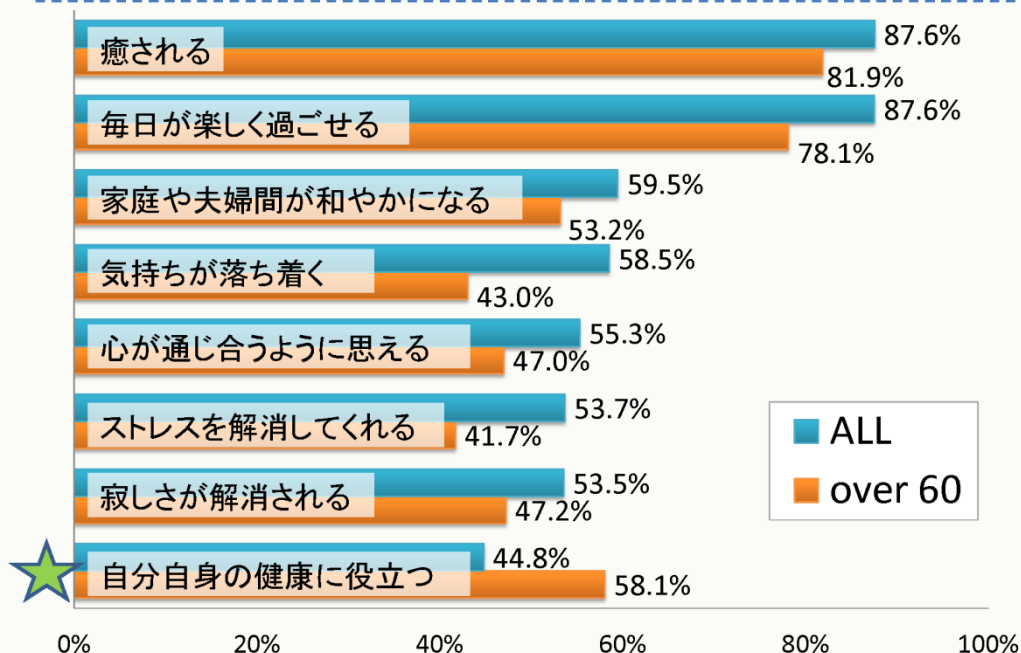
ペットとの暮らしで、あなたにとって良い面はどんなところですか？

▶ 15

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド15

ペットとの暮らしで良い面は？



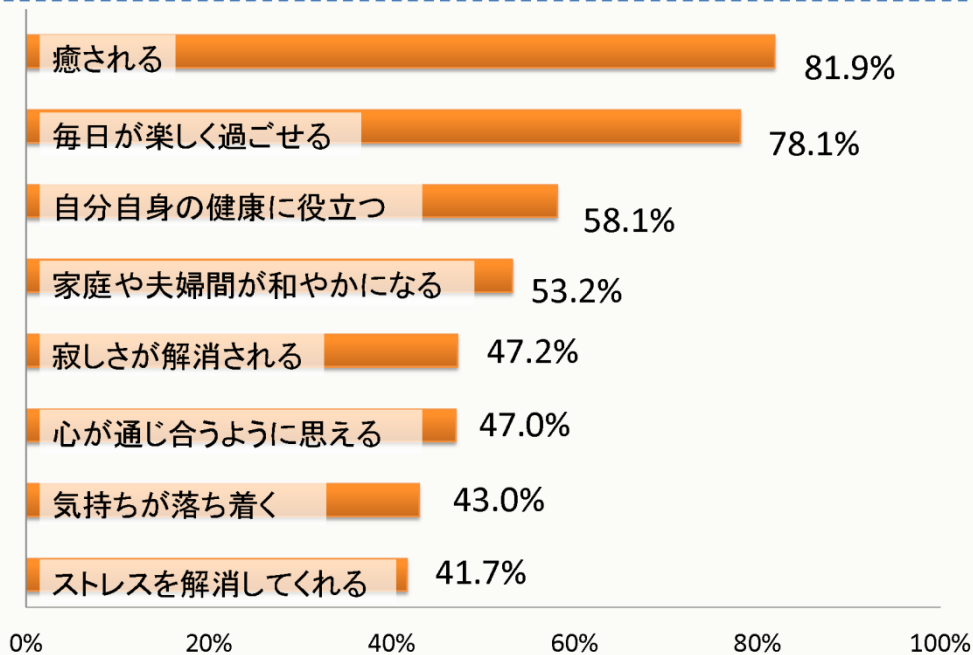
▶ 16

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド16



ペットとの暮らしで良い面は？ Over 60



▶ 17

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド17

「自分自身の健康に役立つ」と回答された方にお聞きします。

あなたに、あてはまるものはどれですか？

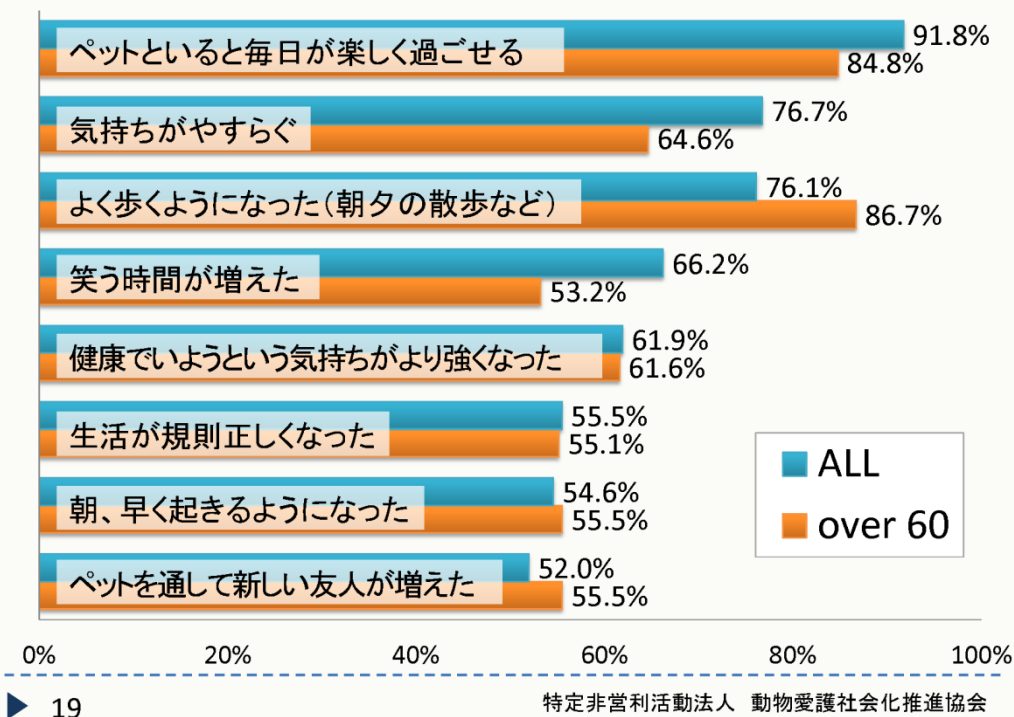
▶ 18

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド18

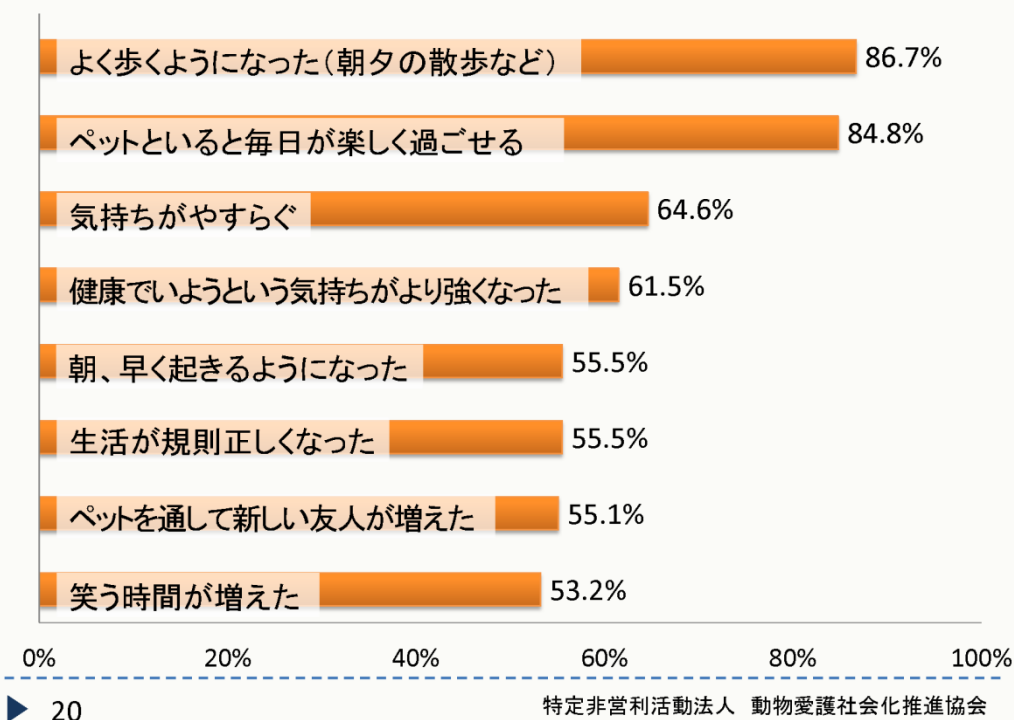


「健康に役立つ」と答えた方に。あてはまるものは？



スライド19

「健康に役立つ」と答えた方があてはまるものは？



スライド20



今いるペットが亡くなってしまっ
たら...

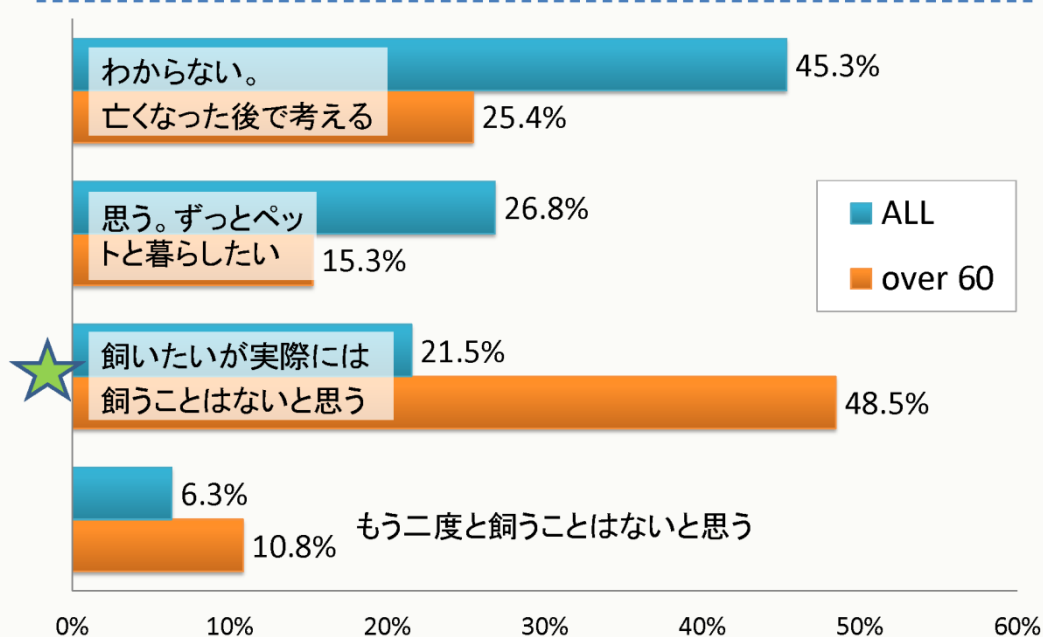
あなたはまた新しくペットを迎え
ようと思いますか？

▶ 21

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド21

また新しくペットを迎えようと思いますか？



▶ 22

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド22



「飼いたい但实际上には飼うことができないと思う」

「もう二度と飼うことはないと思う」

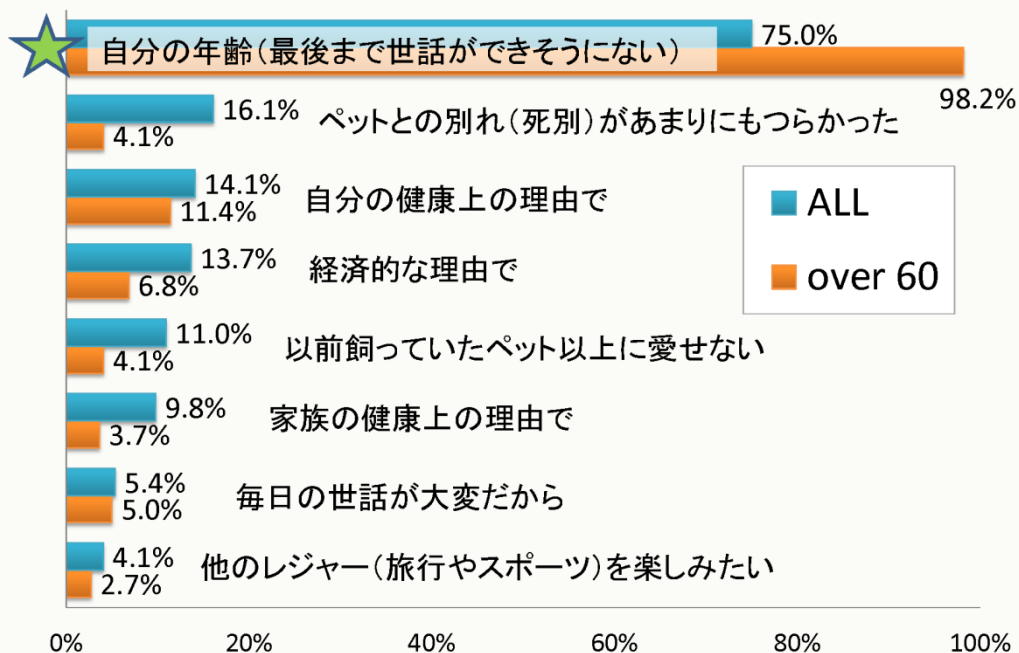
...その理由は？

▶ 23

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド23

「飼いたい但实际上には飼えないと思う」その理由



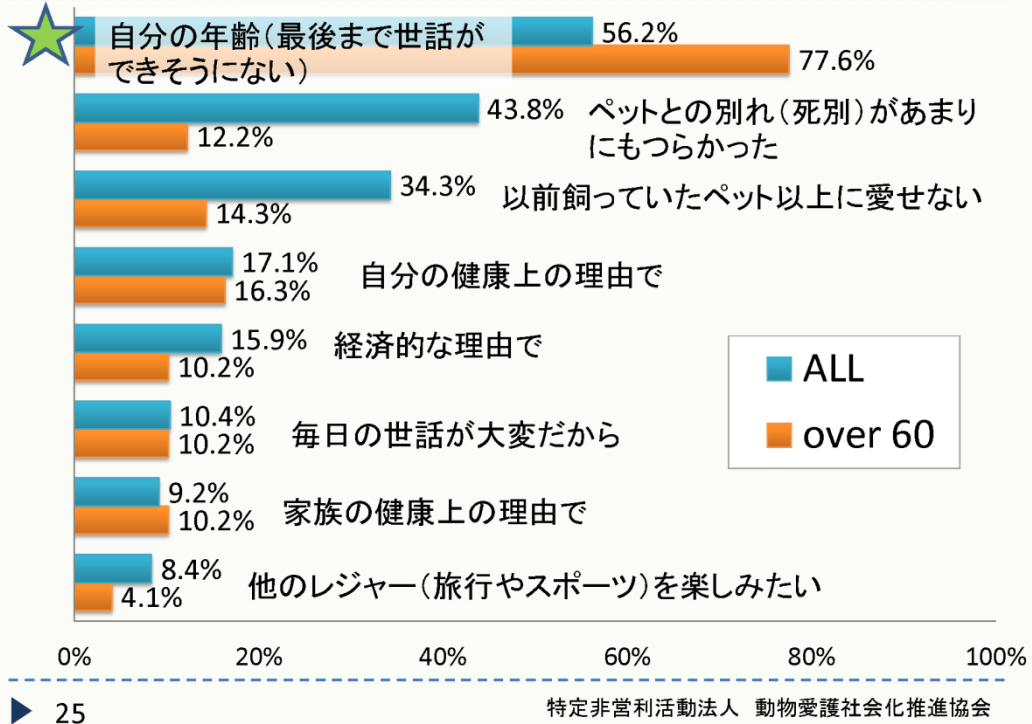
▶ 24

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド24



「二度と飼うことはないと思う」 その理由



スライド25

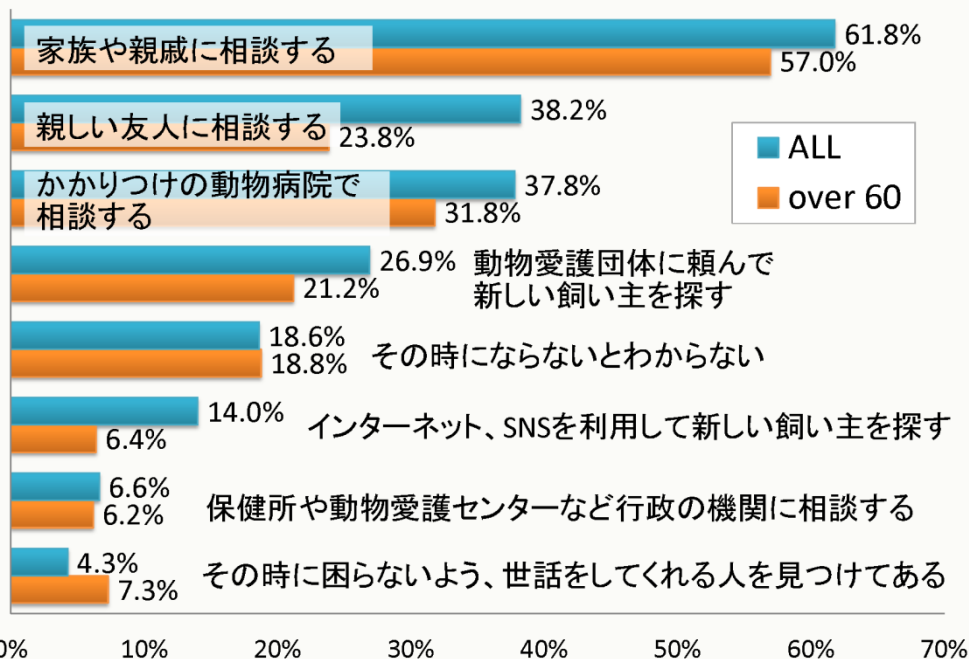
何らかの理由(健康面や経済面、住宅事情など)でペットの飼育がどうしてもできなくなった時あなたはどうしますか？

▶ 26 特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド26



飼育ができなくなった時、どうしますか？



▶ 27

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド27

あなたは現在、ご自身の日常生活全般について満足していますか？

平成26年度 内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」の同じ質問で対比

※内閣府による全国60歳以上の男女 3,893人を対象に、平成6年より一般高齢者の総合的な調査を5年毎に実施。

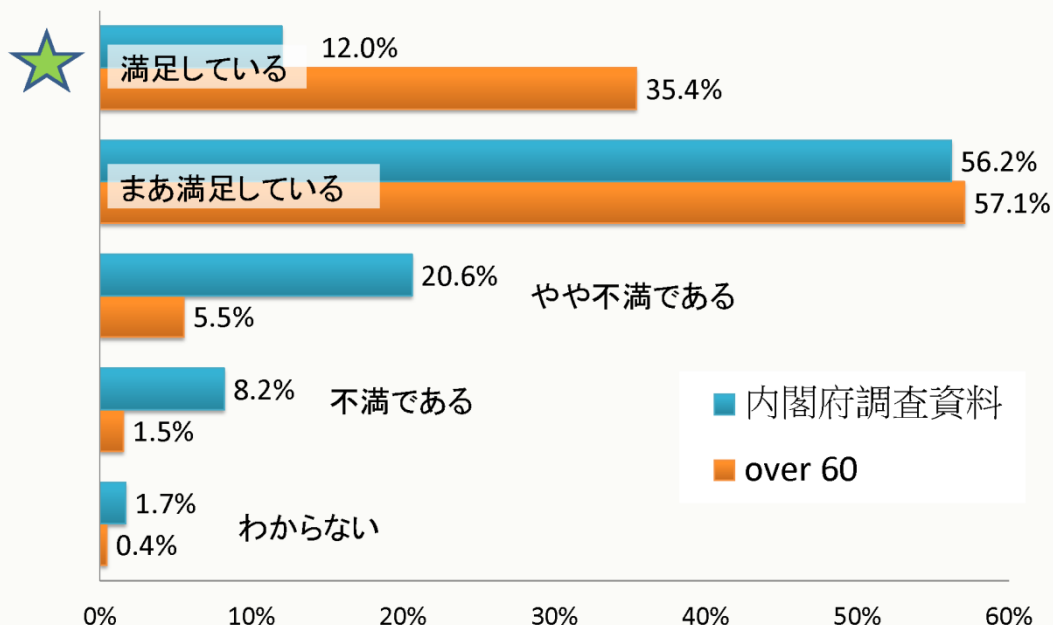
▶ 28

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド28



日常生活全般について満足していますか？



▶ 29

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド29

あなたが普段の生活で楽しいと感じていることは何ですか？

平成26年度 内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」の同じ質問で対比

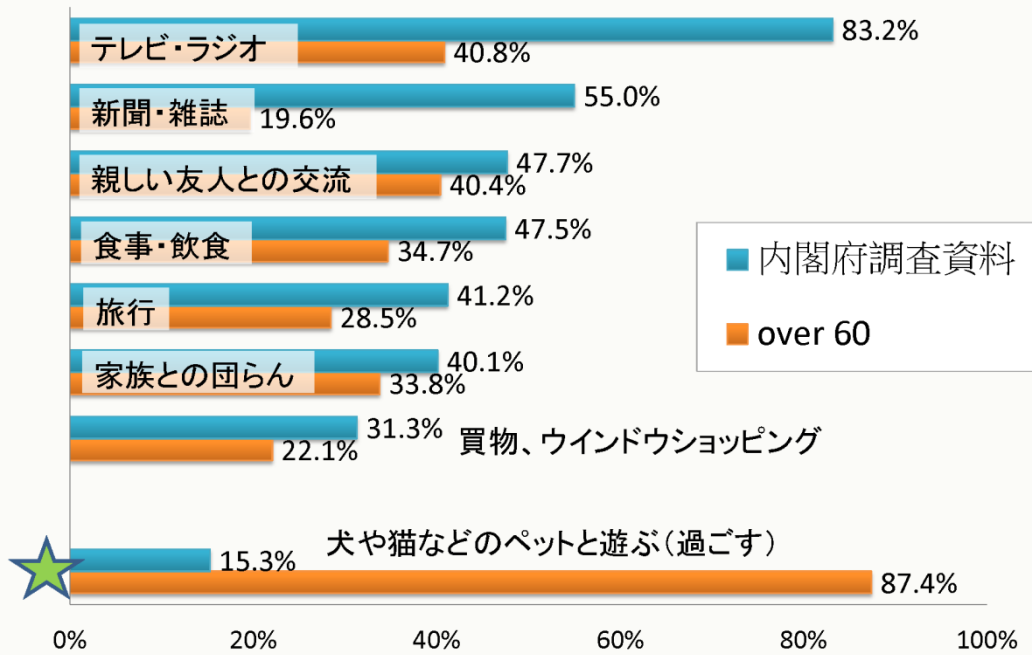
▶ 30

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド30



普段の生活で楽しいと感じていることは？

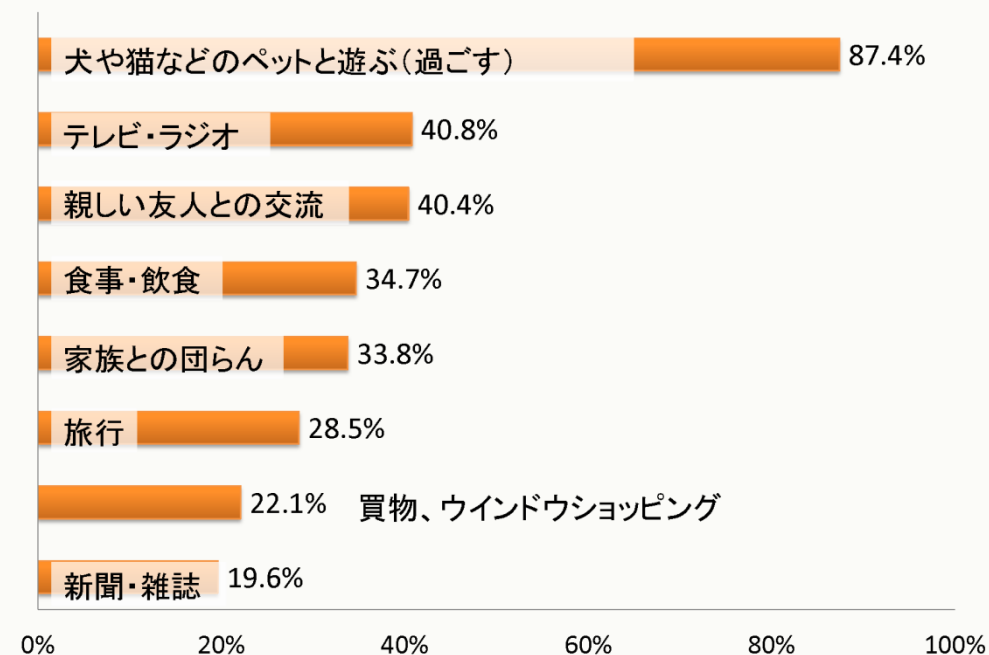


▶ 31

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド31

普段の生活で楽しいと感じていること over 60



▶ 32

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド32



あなたは、将来の自分の日常生活全般について、どのようなことに不安を感じますか？

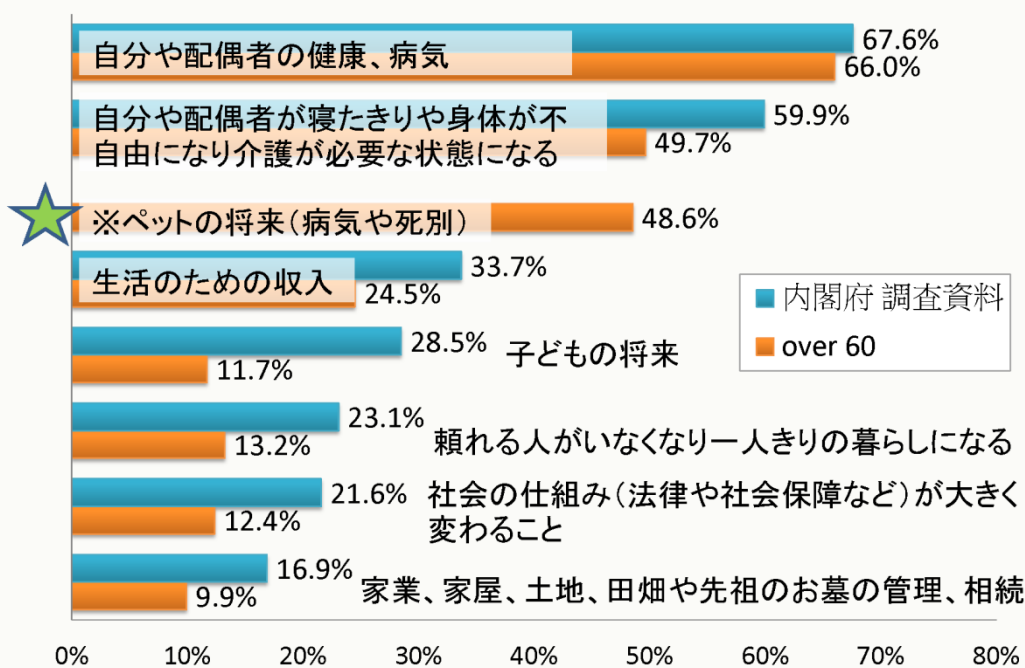
平成26年度 内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」の同じ質問で対比

▶ 33

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド33

将来、どのようなことに不安を感じますか？



▶ 34

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド34



私たちができること

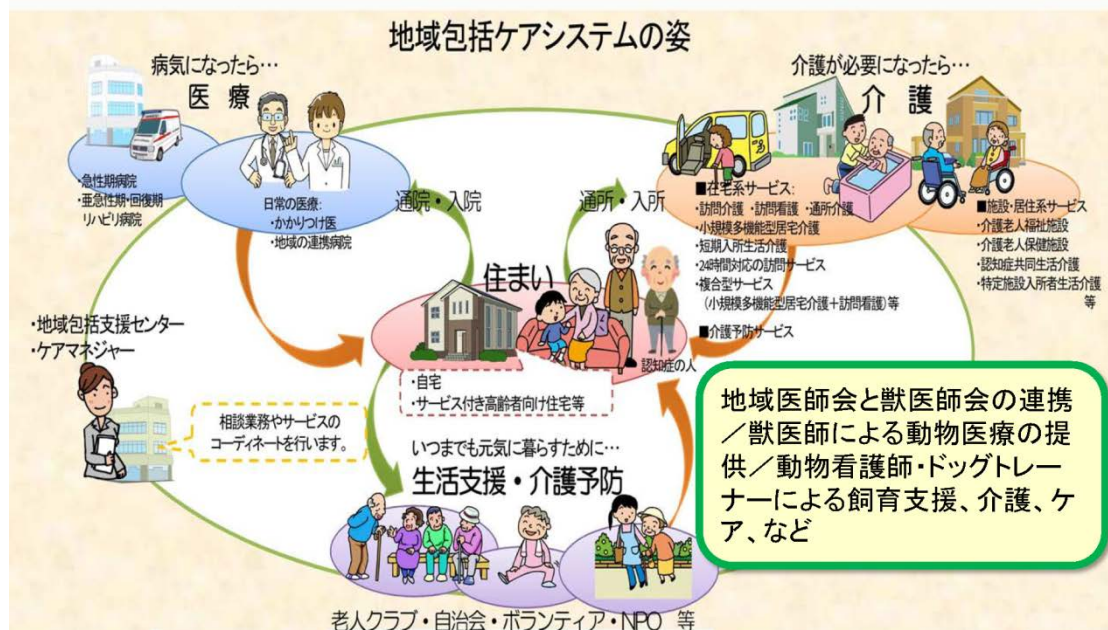
課題、これからの取組

▶ 35

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド35

「概念図」を実際の地域・生活環境へ



▶ 36

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド36



日本の65歳以上人口は 約3,400万人

単位: 万人(人口)

	2015年(H27年)		2030年(H42年)	
	総数	構成比	総数	構成比
総人口	12,660	100.0%	11,662	100.0%
高齢者人口(65歳以上)	3,395	26.8%	3,685	31.6%
65~74歳人口	1,749	13.8%	1,407	12.1%
75歳以上人口	1,646	13.0%	2,278	19.5%
生産者人口(15~64歳)	7,682	60.7%	6,773	58.1%
年少人口(0~14歳)	1,583	12.5%	1,204	10.3%

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果より。

▶ 37

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド37

高齢者の生活背景は多様
必要とされる支援、望むサービスは単一ではない

多職種連携

▶ 38

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド38



3. 私たちができること

フォーマルサービス

- ・医療保険制度や介護保険制度などの法律・制度に基づいて行われる公的なサービス

インフォーマルサービス

- ・NPO法人、ボランティアグループ、家族、友人、知人、地域の人、などが提供する有料・無料も含めてのサービス
- ※動物病院、動物関連事業者等

▶ 39

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド39

今、求められていること

早い段階で対処や支援ができるように、普段、日常の早い段階から関わりを持つ

「困ったことが起きてから」対処するのではなく、「困ったことが起きる前」の準備と環境の整備

▶ 40

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド40



高齢者との関わり

普段、日常からの良い関係づくり

⇒ 地域の動物病院
獣医師／動物看護師・スタッフ

役割の拡大

▶ 41

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド41

高齢者との関わり 「70歳から子犬を迎える」

70歳からパピーとともに

動物病院

面談

住環境
飼育経験
本人の健康状態
経済面

自宅

動物病院から高齢者へ
子犬の飼育を提案

動物と暮らすことで心にも身体にも
多くの効果があることが各方面から報告されてい
当院では
"70歳からパピーとともに"
のプログラムをスタートし、支援しています。
日本の女性は86歳が平均寿命です。16年間ともに元気で暮
らして頂ければ幸いです。途中でダウンされることがあり
ましたら、支援のお約束もお受けする準備も始めました。
もちろん、レスキュー動物も御紹介します。
お申し出下さい。
赤坂動物病院

▶ 42

特定非営利活動法人 動物愛護社会化推進協会

スライド42



動物愛護推進員 へ 勉強会を開催

動物愛護推進員を対象にした、高齢者の飼育支援に関する勉強会を開催(埼玉県)

「介護」の現状、高齢者の有する問題、課題についてや、ペット飼育に関わる問題の事例などを紹介し、「高齢者の問題」、「ペットの問題」の両方を共に知り理解することで「高齢者のペット飼育支援」に取り組む。

高齢者のペット飼育支援 ～わたしたちができること～



高齢社会の現在、様々な理由でペットと暮らす高齢者が増えています。高齢者がペットを飼うことは心や体に元気と活力を与え、心身の低下を防いだり、生活にハリが出たりといったメリットがある反面、急な病気やケガなどによる緊急搬送されるペットも出てきています。残念なことに、しじみペットを手放さざるを得ないという状況になって初めて私たちはそういった情報を知ることになります。あまりに急遽送って救えないのが現状です。でも、もっと早くに得たから形で関わっていきながら出来たら、高齢者がペットも幸せに暮らせるのではないのでしょうか？



…まだまだ出来ることはたくさんあるようです。

高齢者のペット飼育を「高齢者の問題」、「ペットの問題」と分けて考えるのではなく双方を共に考え「高齢者のペット飼育を支援する」取り組みが必要ではないかと思えます。

高齢者の関わりやすい地域包括支援センターやケアマネジャーは、ペットと暮らす高齢者の情報も入りやすく、ペットが介するトラブルが発生した場合にも当事者の応じはあります。しかし、ペットに関する情報が無く、ペット自体の対応が一歩後退してしまっています。もしも地域包括支援センターやケアマネジャーと私たち動物愛護推進員とのネットワークが構築できれば、ペットが介するトラブルを未然に防ぎ、ペットを救うことにもなり、また高齢者自身の問題解決にも繋がります。

ある日突然飼育放棄されるという事態を防ぐためにも、私たちが早い段階で関わることで、高齢の飼い主がペットの面倒を見られなくなった場合の心構えや覚悟を一緒に考えていけるようになれば、高齢者もペットも安心して生活できるのではないのでしょうか。

私にも何かお手伝いできることがある！と思われた方は是非一度お住まいの近くにある地域包括支援センターを訪ねてみてください。

動物愛護推進員、居宅介護支援専門員(ケアマネジャー) 倉田美幸
高齢者のペット飼育支援についてご意見、お問い合わせはメールまたはAVでお願ひします。
e-mail:adinhun_hu@ywhn.co.jp FAX:078-527-4079

「できること」の情報を伝える

「高齢者とペットに私たちはどんなお手伝いがしてあげられるのでしょうか？」



…まだまだ出来ることはたくさんあるようです。



ご清聴いただき ありがとうございます



Aguu ♂ (neutered・2 years old) / Jigsaw ♂ (neutered・7 years old)

スライド45